

兵高教組

調査情報

2021年7月12日 6号

兵庫県高等学校教職員組合調査部

TEL : 078-341-6745

FAX : 078-351-3185

URL : <http://www.hyogo-kokyoso.com>mail : honbu@hyogo-kokyoso.com

「力合わせ、ハラスメントのないところ通いあう学校を」 高教組委員長呼びかけ



「いっしょに、ハラスメントのない学校づくりを」 教育長回答

2021年度教育長交渉

7月2日(金)、女性交流館にて教育長交渉が行われ、従来の労使慣行を尊重するとともに、相互の信頼関係を大切にしながら、今後とも進めていくことが確認されました。

「働きがいのある職場を」

県教委 西上三鶴 教育長あいさつ(抜粋)

みなさまには日頃学校現場で、兵庫の子どもたちのためにご尽力いただいておりますことにお礼を申し上げます。

兵教大の学長に開きましたところ、「先生になりたがっている方が減っている。教育現場に若干『ブラック化』みたいな意識をお持ちの学生もいる」と言われました。これまで「働き方改革」を進めてきているところですが、働きがいのある職場としての学校づくりについては、引き続きとりくんでいきたいと思っております。

労使慣行については従来からの労使慣行を尊重しながら、また相互には信頼関係を保ちながら、今の課題につきましても、誠意をもって対応していきたいと思っております。

「ところ通いあう学校の実現を」

高教組 小野泰司 中央執行委員長あいさつ

教育委員会が発出した通知の中で、私たち高教組がとても大切にしている通知があります。それは、高塚高校事件や県農事件をうけて、1991年に出された「ところ通いあう学校運営について」という通知です。

通知には、「職員会議等において、教職員が十分な意見交換を行って、共通理解を深め、意思疎通を図って、お互いのところのつながりと信頼関係を作り上げていくことが、きわめて重要である」と書かれていますが、本当にその通りだと思います。

しかし、通知から30年、学校現場は必ずしも「ところ通いあう」現場とはなっていない、それが現実です。

とりわけ、最近強く問題だと感じていることは、管理職によるハラスメントです。校長の

前に出ると涙が出る、一方的に怒鳴る校長のいる職場にどうしても行けない、校長が怖くて震えてしまう、動悸が苦しい、何を言っても無駄なのでもうあきらめたなどの悲痛な声、本当に胸が痛みます。管理職の心ない言動によって、こころに傷を受け、通院や服薬を余儀なくされている方がいます。もちろん、管理職の多くがそうだななどと言っているのではありません。しかし、一部の管理職は、リーダーシップのことを、たとえ反対意見が多くても自分のやりたいようにやること、自分の言うことに従わせることなどと勘違いしているとしか思えないのです。

今、たとえ自分と違う意見でも、まずは、しっかり受け止めて考えてみる、人の痛みを自分の痛みとして感じるができるなど、このようなリーダーシップが強く求められています。

学校からハラスメントをなくしたいという思いは、私たちも教育委員会も全く同じだと思います。実際、最近では、教職員課のみなさんと文字通り、力を合わせてハラスメント解消に取り組んでいて、本当に心強く感じています。

「ところ通い合う学校」。簡単に実現しそうに見えて、その実、なかなか届かない、そんなめざすべき学校の実現に向けて、コロナ禍の今、だからこそなおさら、信頼関係を積み上げて、お互い奮闘したい。その決意と期待を申し上げて挨拶とさせていただきます。今年度もよろしくお祈りいたします。

高教組の年度当初要求項目

1. これまで培われてきた「信頼関係」を確固たるものにするために、「よき労使慣行は尊重し、相互理解を深め、誠意をもって対応したい」としたこれまでの回答を踏襲すること。
2. 地域の高等学校・特別支援学校を守ることや未来を担う子どもたちの教育をよりよいものにするために、教育予算の増額、教職員定数の増加など、教育条件整備をはかること。
3. 教職員が安心して教育に打ち込めるようにするために
 - 1) コロナ禍の中で教職員の勤務の軽減につながる施策をうちだすこと。
 - 2) 人事異動の方針、あり方について協議すること。

「いっしょにハラスメントのない学校に」 教育長回答(抜粋)

我々としてはハラスメントというのは非常に問題があると思っております。そういったハラスメントのない学校づくりを進めているところなので、引き続き組合のみなさんと一緒にとりくみたいと思っております。

「安全・安心に学校生活を送れるよう奮闘」 福田純次 従組委員長

新型コロナ感染から教職員とともに生徒たちを守るため、通常業務の上に、これまでとは全く違ういろいろなコロナ対応が加わっています。技能労務職員は大忙しですが、この困難を乗り越えるためにがんばっています。生徒、教職員が安全・安心に学校生活を送れるよう、立場は違えど同じ目標に向かって今後も協力していきたい。

「寄宿舎の充実のため寄宿舎教員の採用を」 中西園枝 中央執行副委員長(障教組委員長)

阪神地域の阪神北ならびにむしがわ特別支援学校新設、本当にうれしい限りです。今後、他地域についても、とくに東播磨地域での新設早期実現をお願いしたい。また、教育の場として寄宿舎の充実を図るために、いまずぐ採用試験再開が必要です。さらに妊娠負担軽減については、昨年度の交渉を受けて管理職向けのQ&Aが改訂されましたが、「学校に対して原則1人を配当する」という方針が変わっていないことは認められません。対象教員一人ひとりに対して補助教員を配置することを強く求めます。